

● 第4回多摩市自治推進委員会

平成21年9月16日 19:00~21:00

貝取コミュニティセンター 音楽室

出席者： 江尻京子委員長 磯崎初仁副委員長 大木貞嗣委員 金今善委員 益子千秋委員
横倉敏郎委員

事務局： 企画課長 企画調整担当主査 企画課主任

審議

- ・コミュニティセンター運営協議会との意見交換

今後の予定

- ・第5回 10月14日(水)

委員 貝取コミュニティセンター運営協議会の皆さん、こんばんわ。本日は、ざつくばらんに
お伺いしたい。多摩市自治推進委員会では、自治の推進についていろいろな角度から審議
している。他の審議会と違うところは、市長からの諮問を受けなくても、市長に提言でき
ることである。私たちは今年の6月から第3期の委員をしている。これから何を提言して
いくかを話し合っているが、自治を推進する上ではコミュニティが大事だと思っている。
そこで、いろんなコミュニティの団体がある中で、是非、現場に行ってコミュニティセン
ターの運営協議会の皆さんと話し合いをしたいということになった。私の方から委員の紹
介をさせていただく。

(委員の紹介)

協議会 貝取コミュニティセンター(こぶし館)も今年で15年が経った。まだ、成人には達し
ていないわけだが、それに向けていろんなことを考えている。こちらも運営協議会の役員
を紹介する。(運営協議会の役員の紹介)

委員 意見交換の前に館内を案内していただく。

(館内の見学)

委員 こちらであらかじめ質問を用意しているが、運営協議会から資料をいただいたので、そ
れについて説明をいただきたい。

協議会 運営協議会では、新任のスタッフや運営委員に対して、コミュニティセンターはどうい
うものか、また、こぶし館でやっていることについて、資料を渡して説明している。資料
では、管理、運営の仕組みや運営協議会の組織などを解説している。館を通じてネットワ
ークを広げる活動をしてもらいたいというのが運営協議会の考えであり、資料の最後には、
こぶし館の運営について、どこを向いて仕事をしているかを図にしている。運営委員は交
流と楽しさを軸にし、スタッフは能率と効率を軸にしている。貝取コミュニティセンター
会則前文では、交流と楽しさのための場を提供するということを謳っている。これを基本
に活動を進めているので、個々の事業について賛成とか反対とか意見はあるが、進む方向
は同じである。

協議会 事業・活動等の計画について説明する。

協議会 総務部には「キャリアを語る」という事業がある。これは地域にお住まいの方をゲスト
に招いて、これまでの半生や思い出などを話してもらい、参加者同士の交流もしている。
この事業は年2回ある。

- 協議会 広報部では、毎月1回広報誌を7,000部発行し、貝取・豊ヶ丘地区に配布している。これからやる事業を早く皆さんにお知らせして、なるべく多くの方に参加してもらうことを第一の目的としている。
- 協議会 文化部では、「七夕コンサート」、「新春コンサート」として、コンサートを年2回やっている。来場者には1口100円の協力をいただき、全額を社会福祉協議会に寄附している。また、豊ヶ丘児童館と共催という形で「夏休みこどもお楽しみ会」をやっている。
- 協議会 コンサート2回で計28,000円くらい寄附した。
- 協議会 福祉部では、通年で、古切手、使用済みプリペイドカード等を収集し、福祉施設などに寄附している。毎年2回、6月と2月には救命講習会を多摩消防署の方々の協力を得てやっている。その他、「男の料理」講座をやっている。高齢者で一人暮らしの方が多いので、旬の食材で簡単に作れるメニューを紹介し、一緒に料理することで地域の人と交流できる場になっている。
- 協議会 健康部では、スポーツ講習会を年に2回、9月と10月にやっている。グラウンドゴルフは高齢者と学童と一緒に楽しめるスポーツです。10月の第2回は市の快汗スポーツデーに参加する。今年は小学校のPTAに協力をいただき4つの小学校と共催した。9月の第1回は約90名の参加があった。毎年の健康教室では、骨密度の測定をやっており、前回は40人ぐらい参加した。受け入れの都合で定員があり、毎回30人ぐらいお断りするほどの盛況である。その他、口腔体操を健康センターの先生にお願いして実施したり中国の球技など、新しいスポーツも紹介したりしている。
- 協議会 会計からこぶし館の財源について説明する。指定管理者になって、運営協議会も稼げと市から言われている。そこで、こぶし館玄関前で野菜の販売をしてもらい、売り上げから一定の手数料をいただいている。また、広報紙『こぶし館だより』に広告を掲載し、広告料ももらっている。その他、こぶし館まつりや開放デーや納涼のタベなどで物品、飲料を販売し売り上げを財源としている。
- 協議会 喫茶委員会では、ロビーの奥にある喫茶コーナーを運営している。原材料とその他を含め、赤字にならない程度の料金をとっている。
- 協議会 ギャラリー委員会では、ギャラリースペースの利用を管理している。3ヶ月前から利用の予約を受け付けている。個人の方のご利用が多い。有料にしたいが、なかなか踏み切れない状況。しかし、皆さんに喜んで使っていただいている。また、年末年始にはロビーの飾りつけもしている。
- 協議会 図書委員会では、2階に図書コーナー(1,800冊蔵書)をつくっている。これはみんな寄附皆さんから寄贈していただいたもの。毎年、少しずつ寄贈がある。図書は貸し出しもしている。
- 協議会 「工作の日」委員会では、工作室を毎月第1日曜日に一般開放している。どなたでも利用でき、作り方の相談も受けている。できるかぎり助言し、道具を貸してその場で一緒にやっている。全館開放デーには「夏の工作の日」という催し物があり、夏休みの工作をしている。今年は、藍染が好評だった。工作の指導には、地域に住んでいる工芸、手芸関係者の協力がある。冬の工作の日では12月の暮れにいろんな行事があるが、クリスマスや正月の飾りなどを地域の方の協力をいただいている。夏の工作の日、冬の工作の日はともに青少協の協力がある。なお、冬の工作の日には、地域の伝統食である多摩そばをつくって

試食することもやっている。

協議会 緑花委員会では、種、球根を買って、または、道路交通課やみどりと環境課からもらって、植えている。市民活動支援課からは、まちづくり事業補助金の援助を受けている。委員会だけで緑花事業を実施するのは限界があるので、グリーンライブセンターの指導をうけている。秋になるとケヤキなどの落葉があるので、掃き集めて腐葉土づくりをしている。

協議会 15周年委員会は今年だけの委員会である。毎年やっている事業を、いつもよりも少し工夫をして賑やかにやろうとしている。今年だけの催しものでは、こぶし館の15年間を裏で支えてくれた人たち、清掃スタッフ、設備のメンテナンス業者の方たちを招いて、感謝の催しをやった。今年の後半にも、もう少し活動を続けたいと思う。運営委員の他には、協力員もいる。運営委員のように年間で活動するのではなく、特定の事業や委員会の手伝いをしてもらう。協力員は、登録をしてもらっている。

協議会 指定管理者自己評価表で20年度のを資料としてお渡しした。評価項目は5項目ある。広報活動、地域との連携、個人情報、事務職員の対応について、こぶし館独自で取り組んだ実例。このほか、運営についてなども書いてある。

委員 運営協議会の委員の構成と公募について伺いたい。

協議会 運営協議会の委員構成には、地域団体の代表や団体の推薦を受けた人はいない。結果的に団体の代表であった人はいるが、個人の資格で参加している。全員公募ということでそれ以外の委員はいない。

委員 年代、職業、性別はどうなっているか。

協議会 特に詳しくは調べていない。男女比率は3対2。運営協議会に入るきっかけは、現在の運営委員から勧誘される人、こぶし館のイベントを通じて興味を持つ人、貸室の利用を通じて運営協議会と接触があったというのが主なもの。

協議会 運営委員は全員で51人。男30人。女20人。

委員 運営委員になりたい人はなれるのか。

協議会 大歓迎。

協議会 運営委員には必ずどこかの部に所属してもらっている。

委員 協力委員の数は。

協議会 30人ぐらい。

委員 委員の任期は。また、今年、委員になった人はいるか。

協議会 委員に任期はない。今年に委員になった人の例としては、事務局にいたスタッフの契約が終わって、そのまま委員になるというケースがあった。

委員 全く新しい人が委員になると活動しにくいところはあるか。

協議会 それはある。そういうことをなるべく無くそうとしている。

委員 運営委員は最初何人いたか。

協議会 最初80名近くいたが、委員の交代などを経て今の人数になった。

委員 コミュニティセンター全体の運営方針はどこで決めるのか。

協議会 総会で決める。

委員 指定管理者制度になって変わったことは。

協議会 一つは運営並びに財政的に若干の自由度がでた。二つ目は、指定者管理になるといろいろな面での責任が発生した。

- 協議会 例えば、館内の浴室でトラブルが生じたとき、最終的には会長の責任になるのかなと思う。利用者とのトラブルにどう対応するかという問題は大きい。
- 協議会 予算がある程度の繰越できるのはありがたいが、繰越が大きいと税務署から課税されることになっている。不思議な話だ。
- 協議会 修理や小さな修繕等をやることがあるので、繰越はそれほどにはたまらない。周年記念事業のための積立をしているが、それも多額になると課税対象になるのが頭を悩ますところ。指定管理料にも消費税が徴収される。役所からのお金に課税されるのはおかしいと思う。
- 協議会 野菜を売ったお金などに税金はかからない。特別会計も一般会計も合計して一定額を超えると課税される。
- 委員 指定管理になったからといって市との関係が良くなった悪くなったとかはあるか。
- 協議会 基本的に変わらない。
- 協議会 小破修繕はこちらでできるものは可能な限りやっている。
- 委員 指定管理者制度導入前は市がやっていたのか。
- 協議会 予算に限度があるので何でもやってくれたわけではないが。
- 協議会 広場のフェンス設置は市でやってもらったが、その代わり、今年はフェンスの周りの植栽を運営協議会で手入れした。また、駐輪場の屋根も設置した。
- 協議会 ソファのカバーの破れなどは「工作の日」委員会の有志にやってもらったりしている。
- 委員 利用者の意見を求めるためアンケートを2回やっているが、反応は。
- 協議会 苦情はほとんどない。
- 協議会 貸室利用の時間帯は、今まではコミュニティセンター7館一律だったが、統計をとると午後全部を使う人があまり多くなかったので、最近3コマを4コマに直して午後を二つに分けた。
- 委員 全市一律の基準はあるか。
- 協議会 7館一律の基準というのはある。貸室の単価とか営業行為はだめだとか。
- 委員 世代間の交流などはどうか。
- 協議会 開館したときに、浴室の前に誰でも出入りできるスペースがあるから世代を超えて交流が起こることを期待したが、実際はそうならなかった。ただ場所だけがあってもだめだと分かった。交流を主目的とした事業はないが、既存の事業の中で交流を図るように努めたい。
- 協議会 青少協が、こぶし館を会議の場所にしたり、子どもの居場所づくりに協力したりしてくれて、世代間の交流として助かっている。創館当時はどうなるかと思ったが、来館者の子どもたちを見る目が変わったし、子どもたちも前ほど騒いだり暴れたりしなくなった。
- 協議会 最初は健康教室なども高齢者を対象にしたものが多かったが、7～8年前から始めたグラウンドゴルフは子どもに呼びかけたり、4つの小学校とPTAの協力を得たりして、前回は90名近くの参加者があった。
- 委員 総務部では若い人たちとどのようなかわりをもっているか。
- 協議会 青少年が館の特定の場所を占有することがあった。その対策で、大人と子どもが交流して言いたいことを言うということを何年間かやったが。しかし参加者が次第に少なくなり、やらなくなった。他の方法の模索をしている。
- 委員 問題があったのは中学生とか高校生か。

- 協議会 そのとおり。
- 委員 こぶし館で受ける苦情は、どんなものか。
- 協議会 今、多いのは駐車場が少ないこと。また、貸室を使いたい時に使えないこと。全体の利用率は 56～57 パーセントだが、曜日とスペースと時間帯によっては競争率が高く抽選になる。
- 委員 駐車場の問題は、車で来る人が多いということか。
- 協議会 最初、近所の人には車以外で来ることを想定していたが、浴室の利用者も車で来るようになった。
- 委員 児童館と一緒に「夏休みこどもお楽しみ会」をやっているとのことだが、地域の自治会や市民グループとかの団体との連携を意識的に行っているか。
- 協議会 こぶし館まつりで団地自治会からお店を出してもらっている。地域ごとに団地のイベントがあるときには、こちらの機材を貸し出ししている。
- 協議会 地域団体の方に感謝状を出している。
- 協議会 骨密度の測定事業なども地域の団体「貝取・豊ヶ丘健康推進委員会」と共催している。
- 協議会 貝取の地域運動会は今年で 26 回目だが、こぶし館ができてからは会議の集まりをここでやっている。
- 委員 地域運動会はどのようなものか。
- 協議会 貝取全地域の団地が参加している。各団地から実行委員会の委員を出してもらい、また、スポーツ振興会や青少協に協力してもらっている。高齢化が進んでいるが、なんとかやっている。
- 協議会 団地が一遍にできたとき何かできないかということで、一番簡単で皆が参加できるものとして地域運動会がはじまった。
- 委員 団地の自治会から役員をやるということで。
- 協議会 貝取の特徴として中学生が実行委員会に参加してくれている。ボーイスカウトも参加してくれる。
- 委員 15 年前にこぶし館ができたとき、すでに地域にいろいろな団体があった。こうした団体とこぶし館との関係は今後どうされるのか。運動会についてもコミュニティセンターは寄付金を出しているが、他からも出ている。お互いに寄付金を出して、いろいろなものが同じ税金でかぶっていると思う。かぶりあっているものを整理して 1+1 が 3 になるようなことを睨んだとき、コミュニティセンターとしてどう考えるか。
- 協議会 高齢者の問題が一番の問題。浴室の利用者に緊急対応のために連絡先の名前を 2 名書いてもらうようにしているが、1 名しか書いてもらえなかったり、全く書いてもらえなかったりする。社会福祉協議会、地域包括支援センター、コミュニティセンター運営協議会と色々な組織があり連携が必要。こぶし館は高齢者の問題をどう考えればいいのかということがある。
- 協議会 コミュニティセンターは場所の提供をしている。現状はソフトではなく、ハードの提供をしている。スポーツ振興会や青少協は、拠点となる場所がないから、コミュニティセンターは場所の提供をしているということだ。スポーツ振興会や青少協の活動は、こぶし館が計画してやっているわけではない。今後も場の提供として機能していこう。
- 協議会 高齢化でイベントが減ってきている。こぶし館が起点になって何かやろう、拠点になる

うという話はでてくるが、具体的な案はでない。いかにして運営委員を増やすか、財源を増やすか、この点をクリアしないと先にすすまない。

協議会 安全な場所、安全なまちづくりもこれから考えていかないといけないと思う。

協議会 ある県では大学と連携してまちの課題に取り組む市民によるコミュニティビジネスを学習できる場を設立したと聞いた。こうした学習も必要なのか。

委員 自治推進委員会の意見の中でコミュニティセンターがソフトとハードで拠点になる時期がきているのではというのがあった。人とお金の話しが先程あったが、もっと稼いで自立していくということについて話はあるか。

協議会 まだでていない。

協議会 我々はボランティアでやっている。このこととお金を稼ぐということがどこまでマッチするか。ボランティアは楽しみながらやるということに意義があると思う。

委員 事務局スタッフは有給だが、運営にはあまり関わらないのか。

協議会 事務局スタッフは、利用者とは一番接点があり、情報を持っているので、月1回、スタッフ会議を開いて意見交換している。スタッフは、現在、13名いる。

委員 任期はいつまでか。

協議会 1年契約で更新している。

委員 運営委員が有給で事務局スタッフをすることはあるのか。

協議会 申し合わせで運営委員は事務局スタッフにはなれない。

委員 合意形成の場として、運営協議会が仲介役としてこぶし館を機能させることはできるか。コミュニティを支えていく上で、自治会も加入率が下がる中では、拠点をもち、地域とつながりを持つコミュニティセンターが、見守りや災害時の助け合いなどについて、話し合いの場所を設けることはどうか。

協議会 そういうことは少しずつ始めている。社会福祉協議会などと話し合いをしている。だが難しい。こちらは個人のボランティアだから。

委員 15周年が節目を考えるきっかけとすると、これからのこぶし館の5年間10年間をどう考えているか。

協議会 運営委員の平均年齢が60代後半だから、10年先を考えるのは難しい。

委員 こぶし館を運営するにあたって、大切にしている取り組みや理念のようなものはあるか。

協議会 こぶし館では、来館した人に必ず笑顔で挨拶するようにしている。そういうことを大事にして子どもたちに声かけしている。

協議会 コミュニティセンターに自治推進委員会の皆さんが期待するものがあれば教えて欲しい。

委員 それを今探っているところだ。いただいた話をもとに現実に近い理想像を市長に提案できればと思う。

委員 運営委員の方は、運営協議会に年間何日ぐらいかかわっているか。

協議会 1ヶ月に1回は最低限来ている。イベントがあるときは、その都度来ている。理事会も1ヶ月に1回はでている。毎月あるから、理事は部会やイベントの打ち合わせや理事会など平均で1ヶ月に3、4日はでている。毎日出ている人もいる。

委員 関わって良かったことはどんなことか。

協議会 いろんな人に会ってお話することができ、これまで知らなかったことを知ることがで

き、視野が広がった。

委員 運営委員会に団体の代表者の人はいるか。

協議会 いる。

協議会 本日は、自治推進委員会が開かれるということで、自治基本条例を読み返した。条例が成立した際は広報などを見ていたが、今は全くといっていいほど内容を忘れている。そういうことから今日来てもらい感謝している。学校で自治基本条例を学ぶ機会はあるのか。

委員 市でもそれを考えている。8月20日のたま広報で自治基本条例を掲載した。小学校、中学校の社会科副読本にも掲載しているのが今の状況である。市民が作った条例なので、市民のために活用していくことを考えなければと思っている。

委員 子どもたちに自治基本条例と接点を持ってもらう仲立ちをする役割が必要だと考えている。今の話で言えばこれからなのかなと思っている。

委員 貝取コミュニティセンターの皆さん、本日は、ありがとうございました。次回の多摩市自治推進委員会は10月14日に開催する。次々回は11月11日を開催予定とする。